

平成21年度 第16回 経営審議会議事要録

日 時 平成21年6月19日（金）14:00～17:15

場 所 北方キャンパス本館 E701 会議室

出席者 <委員>阿南理事長、矢田副理事長（学長）、重渕理事、宮崎理事
近藤理事（副学長）、松藤理事（副学長）、尾上理事（事務局長）、
石丸委員、岡田委員、高橋委員、長尾委員、中津井委員、安川委員
（奥村監事、清原監事）

配布資料

- 1-1 北九州市立大学に関する評価制度の概要
- 1-2 地方独立行政法人評価委員会の評価結果（概要）
- 1-3 平成20年度計画に係る自己点検・評価について
- 1-4 平成20年度計画に係る自己点検・評価報告書（案）
- 2-1 平成20年度 決算
- 2-2 事業報告書 第4期（平成20年度）
- 2-3 独立監査人の監査報告書
- 3 管理職手当の見直しについて
- 4-1 認証評価のこれまでの取組と今後の予定について
- 4-2 認証評価に係る自己点検・評価の実施体制
- 4-3 認証評価自己評価書～優れた点・改善を要する点
- 4-4 大学機関別認証評価 自己評価書（案）
- 4-5 選択的評価事項に係る評価 自己評価書（案）
- 5 公立大学の歴史・現状・課題
- 6 教育サポート戦略会議報告
- 7 平成21年度の教育 GP 等への申請について
- 8 北九州市立大学発「環境モデル都市」支援プロジェクト
- 9 平成21年度入試結果について
- 10-1 広報活動報告（平成20年度）
- 10-2 入試広報計画（平成21年度）
- 11 就職状況について
- 12 第2期中期目標・計画策定スケジュール

議事要旨

第1号 平成20年度計画に係る自己点検・評価報告書について

第2号 平成20年度財務諸表、決算報告及び事業報告について

・平成20年度計画に係る自己点検・評価報告書、平成20年度財務諸表、決算報告及び事業報告について説明

- キャッシュフロー計算書の投資活動の中で固定資産の取得とあるが、昨年度は何か特別なものがあつたのか。
- 3号館の外壁改修工事、1・2号館の間のキャノピーの設置工事による有形固定資産の取得、ひびきのの大学院で実験分析器を購入した。
- 行政サービス実施コスト32億9千万円は、北九州市として北九大にかかった総費用とみていいのか。また昨年に対して多いのか少ないのか、どのように評価しているのか。
- 計算すれば、このような結果となるといったものである。そのなかで、地方公共団体出資の機会費用が2億5千万円ある。これは本学の土地やひびきのキャンパスの土地を、もし大学がなければ市が運用に使えるとして、市債等の長期の運用利率をかけて計算したものであり、そのようなものが他にも幾つかある。国立大学で効率化係数で1%と削減しようとするものがあるが、それが公立大学では市からの運営費交付金にあたり、一昨年度、昨年度とその額が下がってきている。大学からみれば中期計画を実施する際にその運営費交付金が十分であるかどうかということである。
- 独立行政法人評価委員会の評価が平成17年度からBで変わっていない、いろんな面で努力されているのに、Aが付かないのはどうしてか。
- 本学としてはAと考えているのだが、市の基準が非常に厳しくBとなっている。
- 評価報告書は大変素晴らしい、特Aに値するといってもよい。評価をAにするためには、何をすればいいのか。また国立大学は、評価を運営費交付金の割当の1つの素材にしようとしているが、市における評価報告書はどのようにつかわれているのか。目標成度は、出発点が0からの場合と、10からの場合では違う。出発点が低い場合は、達成度は120%になることもある。それからこの大学の目標とその評価というものは、どのレベルにおいて質がどれくらい向上したかという点が問われる訳であるが、質の向上というものをこの評価報告書のなかでどのように理解するのか。
- 運営費交付金については、評価とは関係なくどう頑張っても、市は財政が厳しいので一律カット。市は政策評価を行い、それに応じて交付金を変えることは、聞く限りない。法の趣旨に基づいて運営費交付金をもらっている以上、法の趣旨に基づいて評価書を出している。評価については、全体評価において、「非常に」順調、「極めて」順調などの言葉があり、このような副詞を付けることで弁償されている。Aは「特筆すべき進行状況」を評価委員会が特に認める場合とされており、現状では、付けることができない市の基準の問題が別にある。
- 大学の経営はよく縦割りといわれている。にもかかわらず、評価書をここまでよくまとめるのには、本学のガバナンスが優れていないとできないと思うが、どういう形でまとめているのか。
- 評価室があり、副学長である室長、副室長、それをサポートする事務局として経営企画課の職員がおり、そこを中心に審議をしている。評価室会議では副学長、評価副室長、部局長が全員入り、また全学組織の長も含まれ、全学的な立場で目に見えるような形にしている。作業自体は評価室会議の数名の教員と事務職員で行われている。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第3号 管理職手当の見直しについて

・管理職手当の見直しについて説明

- 教職員組合との交渉後の結果か。見直しのウエイトはバランス重視にあると理解したが、その結果人件費の減となるのか。
- 組合との交渉事項とはしていない。職責とのバランスであり、結果として人件費の減となる。
- 影響額はどうか。
- 現状に当てはめると23年度から年間300万円を超える減であり、教員の管理職手当の約1割減に相当する。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第4号 認証評価自己評価書について

・認証評価自己評価書について説明

- 現在で8億4500万円の目的積立金があり、平成21年の3月期の決算で1億5千万円の取り崩しを行っている。単純に計算すると今後6年間で赤字となるが、これについてはどのように考えているのか。平成21年4月から監事監査規程等が設けられているので、これからは監事が適切な役割を果していくと理解している。経理関係の職員の入れ替わりがあり、その研修を中長期で行うとしているが、短期的に行うべきだ。
- 6年間の中期計画内では、それぞれの年度を越えて繰越が可能だが、6年経った後に繰り越すことができるかという点、原則繰り越せない。今の剰余金を使い果たすか、繰り越すか、市に返却するか、非常にクリティカルな問題であり、従って、ある面では設備投資で使い果たした方がいいという議論もある。次期中期計画以降は、また別の問題である。逆にいえば、剰余金があるので運営費交付金を減らされている。頑張って集めたのに、剰余金があるから運営費交付金を減らすのはおかしいものである。
- コストアップして赤字となっているのではない。赤字となっている額は、ちょうど運営費交付金の減額分であり、運営費交付金さえきちんともらえれば、赤字とならない。
- 今までは市の監査もあったため、体系的に監事業務を整理していなかったが、今回認証評価もあり、それに合わせて、システムをしっかりとしたものにした。特段変わるものではないが、より統合されていくと考えている。

○市の職員は3年で変わっていくが、それに変わるプロパー職員の育成は今後の大きな問題として考えている。

●5つのグループに分かれ書き上げたものを、最終的にまとめる作業はどのようにしたのか。

○認証評価対策室で教員の評価室長、副室長と事務の経営企画課の課長、係長、職員の5名体制が核になって行った。常時、対策室のなかで、集約する作業と文言調整を行い、必要に応じ各グループ代表者を呼んで中身を確認しながら、記載内容を吟味した。学長も全学的な立場から複数回確認を行った。

●進め方が企業に似ている。縦割りに横串をさしてまとめており、大変素晴らしい。

●言葉についての質問だが、大学で「審議」をするというときそれは意思決定が含まれているのか。

○法人化後は、経営の重要なものは、この経営審議会で決めている。教学事項は、教育研究審議会で決めるが、具体的なカリキュラムその他教育については、各教授会が担っており、全体共通事項については教育研究審議会で審議する。一番違うのは、教員人事は教授会では行わず、上の教員研究審議会が直轄している。教員採用に当たっての、投票行動、政治的な動きは一切なくしている。審議は決定も含んでいる。

●大学の目的で、現代の地域課題に対応するとしているが、骨太的な言い方だと現在の北九州地域が抱える課題とは何か。それに対して北九大がどう対応しようとしているのか。短期的な期間を設定して、大学として取り組むべきものなのか、シンクタンクなのか行政なのか。

○原則は、大学は学問と教育の自由があるので、行政の政策に深くコミットする話ではない。自主的に個人の能力や組織の能力で、個別に参加するものであって、北九州市の課題がこれで、大学はこういう形で参画しなければならないということはある得ない。それであれば教員は参画できない。ただ、個別に能力を持っている人は、個別に参加している。行政を批判する先生もいれば、行政の審議会会長になる先生もいる。両方いて良いという考えが大学のあり方であり、そこを原則維持しなければならない。勝手に考えて勝手に貢献しているものである。

【議長】本議案について原案通り承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

報告事項

・ 事務局より、以下の項目について報告された。

○ 公立大学の歴史・現状・課題

1 教育と研究の質の向上について

① 教育支援システム開発

② 教育G P等の申請

③ 北九州市立大学発「環境モデル都市」支援プロジェクト

2 入試について

- ① 平成21年度入試結果
- ② 平成20年度広報活動報告及び平成21年度入試広報計画
- 3 学生の就職状況について
 - ① 平成20年度卒業生の就職状況
 - ② 平成21年度の就職活動状況
- 4 その他
 - ① 次期中期計画の取り組みについて